連載 プロマネの現場から
第 157 回 上海の魅力的な劇場

蒼海憲治（大手 SI 企業・上海現地法人・技術総監）

前回、オールド上海を体験することのできるジャズバーを紹介しましたが、上海には、世界で最も魅力的な場所の一つともいえる劇場・コンサートホールが多数あります。上海の面積は、大分県や群馬県とほぼ同じ 6300km²で、東京都全体の 3 倍、東京都 23 区の 10 倍の大きさがあります。東京都 23 区の各区が劇場・コンサートホールを持っているように、上海市内にも多数の劇場・コンサートホールがあります。そして、どの劇場・コンサートホールにおいても、ほぼ毎日様々なコンサートが開催されています。

アリババ（支付宝）のアプリや、テンセントのウイチャット（微信）にあるミニプログラムにあるアプリを利用することで、簡単に、座席指定の予約でチケット購入をすることができます。ただし、人気歌手のチケットは、日本と同様、あっという間に売り切れになります。また、クラシックコンサートも多数開催されているため、ピアノやヴァイオリンなどのリサイタルは容易に予約がとれる一方、新型コロナのせいか、交響楽団のコンサートの開催が限定されているため、チケットの入手が困難になっています。せっかく中国にいるから聞きたいと思っている、二胡や琵琶等の演奏会は小規模なホールで行われているのですが、中国人の公的な身分証明書である「居民身分証」がないと実名登録ができないため、外国人には利用することができません。そのため、大規模ホールでのコンサートを探して聴きに行っています。

ジャズバー通いも、コンサートホール巡りも、新型コロナのため、昨年以来、出張や旅行が減り、上海にいる時間が増えたためという理由以外に、海外赴任が 4 年近くになり、ようやく日本と同じような生活スタイルになったのだと、再認識しています。

今回は、上海市内にある素晴らしい音響効果だけでない、豪華なデザインやユニークな建築の魅力的な劇場・コンサートホールを紹介したいと思います。

１．上海大劇院

上海大劇場は、上海市内の中心部である人民公園の南西側、上海市人民政府に隣接している、ひときわ目立つ立派な劇場です。中国の古典建築亭の外形によって設計されており、屋根は両側の反りと空に抱かれた白いアーチが採用されています。敷地面積は約 21000 平方メートル、建築総面積は 70000 平方メートル、建築総高さは 40 メートルの 10 階建てで、上海の文化的シンボル的な建築物になっています。オペラ、ミュージカル、バレエ、シンフォニー、室内音楽、演劇、戯曲などの大型公演が上演されています。新型コロナ以降、大ホールでの外国からの大人数の演奏者が必要なオペラの上演は難しくなっていますが、中小ホールでは連日、ピアノやヴァイオリンのリサイタルが開かれています。

２．上汽上海文化广场

上海文化広場は、日本からの出張者がよく利用するオークラ・ガーデンホテル（花園飯店）やインターコンチネンタルホテルの近くの茂名南路、陝西南路近くの文化広場の中にあります。写真にあるように、ライトアップされた夜景が美しい劇場です。

しかし、この地は、過去１００年の間、さまざまな歴史を歩んできました。１９２０年から３０年代にかけて、２万人収容できるドッグレース場でした。その後、１９５２年に完成した劇場は、上海市民にとっての大衆政治文化活動センターの場所となり、１９６６年までの１４年間に、広場で行われた重要政治集会・報告会が数多く開催されました。ところが、１９６６年から始まる「文化大革命」では、「四人組」はこの場所で陰謀を画策し、多くの指導者や幹部、知識人が批判され粛清される悲劇が起こりました。さらに、火災に見舞われ多くが失われましたが、１９７０年春、周恩来総理の直筆による文化広場の再建指示を受け、８３日間の昼夜兼行の工事により、当時の世界先進レベルの新しい文化広場が完成しました。

会社から徒歩１５分ほどのところにあるため、週末、会社帰りにコンサートを楽しむことができます。

３．上海商城劇院

上海の中心部、南京西路の西側の通り沿いは、高級ブランドショップが連なっていますが、隣接するリッツカールトンホテルの南側にあります。この劇場のホールは、米国のブロードウェイのマーキス劇場をもとに建設されており、約１０００名を収容することができます。

４．上音歌劇院

上海音楽学院は、陝西南路駅に隣接しています。旧フランス租界であったエリアの美しく落ち着いた雰囲気の場所にあります。

総建築面積は 31,926 m²、そのうち、地上建築面積は 14,989 m²、地下建築面積は 16,937 m²。1200 席のオペラハウス、4 つのリハーサル教室、交流報告ホールなどがあります。

５．上海保利大劇院

保利大劇場は、上海市の郊外、北側の嘉定区にあります。周囲が巨大な池に囲まれた美しい劇場です。独特の建物は、中国でも人気のある建築家の安藤忠雄さんにより設計されたものです。写真は昼間の様子ですが、ライトアップされた夜景はひときわ美しいものになっています。

この劇場は、周辺の区民のために嘉定区からの支援があるためか、上海市内に比べて、チケット代が半額以下の廉価で購入し、コンサートや劇を楽しむことができます。周辺には、美しい図書館や博物館もあります。

６．上海国际舞蹈中心

上海国際ダンスセンターは、上海市内の西側の古北（ぐーべい）という日本人が多く住んでいる水城路にあります。上海で唯一のダンスセンターになります。敷地内には、ダンスレッスンのための練習施設が多数あります。

今年の２月２７日、元宵節（春節　（旧正月）から数えて 15 日目で、最初の満月の日）には、中国全土から聴覚障害の方が集まるダンス大会が開催されました。また、唐の時代の衣装で演舞するなど、古代と現代を融合させた前衛的なダンスなども開催されています。

７．凯迪拉克·上海音乐厅

上海コンサートホールは、上海市内中心部の上海博物館の南側、上海大世界劇場の西側にあります。１９３０年に南京大劇場として建てられ、１９５０年に北京映画館になり、その後、１９５９年、上海コンサートホールと改名されていまに至ります。欧風の建築は、外観だけでなく、内装も優雅で荘重な雰囲気があります。中国人による交響曲の楽譜なども展示されており、歴史を感じることができます。

８．东方艺术中心

上海東方芸術センター（Shanghai Oriental Art Center）は、これまで紹介してきた劇場が浦西側にあったのに対し、浦東側の陸家嘴（ルージャズイ）にあります。

フランスの建築家ポール・アンドリューによって設計され、敷地面積は 23,161 平方メートル、総建築面積は 39,964 平方メートルで、コンサートホール、ショールーム、オペラホールなどの施設があります。

中には素敵なレストランがあり、クラシック音楽を聴きながら、コンサート開始までの時間に、美味しい食事やコーヒーを優雅に楽しむことができます。

９．上海交响乐团音乐厅

上海交響楽団音楽ホールは、陝西南路駅の西側、復興中路沿いにあります。音楽ホールは、建築家の磯崎新と音響設計家の豊田泰久により設計されており、音響効果に優れたコンサートホールになっています。

個人的には、このホールで、今年のお正月、ベートーヴェンの交響曲、第九の合唱を歌う予定でしたが、新型コロナのため、前日に中止になったのが、ほろ苦い思い出です。

１０．上海大世界

上海大世界は、かつて中国文化の「東方の門」と呼ばれており、上海っ子にとっては、小学生の頃、中国の様々な文化を学ぶための見学場所として、必ず行く場所になっています。

１９１７年に建てられた大世界ですが、建国後は「人民遊園地」に改名され、その後、「上海市青年宮」、続いて「大世界遊楽センター」と改名されます。２００３年にいったん閉館されたのですが、２０１７年３月に、１４年ぶりに再開されました。上海では有名な娯楽センターであり、「遊戯世界」、「博覧世界」、「競技世界」、「美食世界」の四つの部分から構成されています。

入口に「お化け鏡」というマジックミラーが子供向けに設置されていますが、これは昔からあったようで、中国人の同僚に「大世界に行ったよ」というと、異口同音に「お化け鏡はまだあった」と聞き返されるように、懐かしい場所のシンボルになっています。

中国においても「箱物行政」的な色合いの施設も多いと思いますが、数多くの施設で日々催されるコンサートは、演奏者だけでなく、市民の文化を着実に向上させていると思います。